

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立杉戸高等学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V（複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒 全学年・81人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名 ()</p> <p>③ その他 ()</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 (ボランティア清掃・聖火リレーセレブレーション (ダンス部))</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	東京オリンピック・パラリンピックへの関心を深め、スポーツに参加する・観る・支えるという観点から「あり方・生き方教育」・「人権教育」につなげ、自ら進んで社会に貢献するための人材を育成することを取組のテーマとする
5 取組内容	<p>・地域活動 (ボランティア清掃)</p> <p>7月13日 (金) の放課後、1・2年生の部活動・生徒会を中心とした有志67人名が参加して地域の清掃を行った。コロナ対策で密を避けることもあり、人数制限をして行った。地域に応援される学校になれるように思いを込めてゴミ拾い・清掃を行った。</p> <p>・ダンス部の「聖火リレーセレブレーション」参加</p> <p>ダンス部の1・2年生14名が、7月6日 (火) ~8日 (木) の3日間、所沢航空記念公園、熊谷スポーツ文化公園、さいたま新都心公園を会場にして「CONNECTING WITH HOPE ステージ Presented by NTT」という名称で行われたメインダンサーのパフォーマンスのエンディングのパフォーマンスの協力ダンサーに選出され出演した。県内のダンス部としては唯一の参加校。</p>



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「清掃ボランティア」については、折しも7月7日に本校に面した通りを聖火リレーのランナーが走ったこともあり、まだ聖火ランナーを応援する旗が路上に立てられていた。その道沿いについても清掃を行うことで、オリンピック・パラリンピックが地域の人々、多くの人々の支援と協力で行われているものであることを実感することができた。 ・ダンス部の「聖火リレーセレブレーション」については、参加した生徒一人ひとりに自分たちがオリンピック・パラリンピックを創っていくという自覚を芽生えさせ、地域の方や観客の視点に立った「おもてなし」の精神のパフォーマンスを行うことができた。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の取組と、オリンピック・パラリンピックを東京で行うことでしか味わえない特別な取組を組み合わせることで、生徒たちの成長や学びにとってまたとない重要な機会と位置付けたこと。 ・「聖火リレーセレブレーション」については、折しも自校の前を通った聖火リレーが「つながり」を意識させることになり、地域の方の「迎える」思いを最大限尊重できるようなパフォーマンスを考えることにつなげたこと。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・清掃ボランティアについては、コロナ禍前は、3桁数の参加があった。密を避ける意味で人数を制限しなくてはならなかった。 ・悪天候となったとき、それぞれの違うステージに臨機応変に対応していくこと。 ・地域や大会等に積極的に学校がかかわっていくことが地域やそれに関係する人々の「おもてなし」や思いに気づくことにつながっていくこと。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・「清掃ボランティア」は本校の特色ある取組として継続して実施したいと考えている。

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 埼玉県 】

学校名【 県立杉戸高等学校 】

1 実践テーマ	I ・ II ・ III ・ IV ・ V （複数選択可）
2 実施対象者 (学年・人数)	全校生徒 全学年・855人
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名 ()</p> <p>② 行事名(「トップアスリート講演会」)</p> <p>③ その他(「トップアスリート講演会」事前学習)</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名 ()</p> <p>② その他 ()</p>
4 目標 (ねらい)	東京オリンピック・パラリンピックへの関心を深め、スポーツに参加する・観る・支えるという観点から「あり方・生き方教育」・「人権教育」につなげ、自ら進んで社会に貢献するための人材を育成することを取組のテーマとする
5 取組内容	<p>・「トップアスリート講演会」(元競泳日本代表 星奈津美氏)の事前学習の実施、全校生徒855人が、7月12日(月)～13日(火)の期間で各学年のLHR、全校集会において、星氏の活躍を伝える新聞記事を読み、星氏への質問を考えさせた。</p> <p>・オリンピック・パラリンピック教育推進事業「トップアスリート講演会」兼あり方生き方講演会の実施。9月30日(木)14:20～15:40星奈津美氏(元競泳日本代表)を本校にお招きし、演題「競泳人生で学んだ大切なこと～心も身体も健康であること～」について、パネルディスカッション形式でかつオンラインで講演会を実施した。事前に集まった346の質問を教員で35に絞り、星氏に12の質問を選んでもらった。質問者の12の質問はGoogle Meetで教室から、星氏には、会議室で回答いただいた。司会は女子バドミントン部の二人の生徒が務めた。ただ一方通行の話を聞く形ではなく、生徒参加型の講演会とした。最後に星奈津氏は銅メダルを持って校舎内を歩いていただいた。全校生徒は拍手で見送った。</p>



星氏をお迎えし、オンラインパネル
ディスカッション。



質問者は、教室から Google
Meet で。



本校校長、生徒会長と。



校舎を生徒会長の案内でこやかに
歩く星氏。

6 主な成果

・「トップアスリート講演会」事前学習については、司書の協力でオリンピック選手の当時の活躍と病気の克服、周囲のサポートについての12の新聞記事を読ませた。アスリートの努力、困難を乗り越える方法、周囲のサポートを当時の熱量で学ぶことができた。新聞記事を生徒一人ひとりに読ませ、Google formsを活用してアスリートへの質問を全校生徒から回収した。この質問の回答から9月に実施する講演会で実際にアスリートに質問をする生徒代表を選んだ。

・「トップアスリート講演会」は、緊急事態宣言期間の最終日に実施した。久しぶりの学校行事とあって、生徒も楽しみにして臨んでいた。世界トップレベルで活躍したトップアスリートの星奈津美氏であるが、語り口は優しくわかりやすいもので、生徒の目線に合わせた話をしてくれた。「緊張」との付き合い方、目標の定め方、病気との闘い、気持ちの持ち方、勝負飯、勉強との両立、「継続は力なり」という座右の銘、コーチからの言葉、原動力になったもの、引退後の挑戦、どれも生徒からかけ離れたこととしてではなく、星氏自身がひたむきに何かに努力してきた姿を語ってもらえた。生徒たちの生き方あり方を考えさせるよい機会になった。

<p>7実践において工夫した点 (事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 一方通行の講演会ではなく、生徒参加型の講演会にした点。 緊急事態宣言期間でオンライン授業を1か月間行っていて、オンラインでの質問、回答もスムーズに展開することができた。 • 事前指導においてもBYODを活用した。ICTを活用したことによって実施できた事業であった。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 事前指導の教材化までは首尾よくできたが、担任、学年によって指導時間に差が生じ、均質な指導ができなかった。 • アスリートの方は、各学校で講演会をするということを前向きに考えて取り組んでいただいていると思うが、人によっては報償費が高く、とても簡単には講演会を依頼できない。 • 今回、校長の勤務していた前の学校で星氏が講演会をしていたという縁で、星氏に依頼できたが、学校が一からアスリートを探して依頼するのは、大変負担である。県への登録がある選手の紹介をどこかの課で担っていただくと学校もこのような取組を実施しやすくなると思う。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • 予算がいただければ、ぜひ今年度並みの「トップアスリート講演会」を実施したいと考えている。